

中央情報専門学校

学校関係者評価報告書 (令和5年度)

注記

本報告書は「学校自己評価報告書（令和5年度）」を元に、学校関係者評価委員会（令和6年8月7日（水）開催）での評価等を整理・追記して纏めたものである。

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか
- 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

令和6年度 中央情報専門学校 学校関係者評価委員 名簿（敬称略・順不同）

(氏 名)	(所 属)
委員：清水 雅己	埼玉県立大宮工業高校 元校長 公益社団法人全国工業高等学校協会 名誉会員 埼玉工業大学 工学部 基礎教育センター 教授
委員：腰原 貞利	SKオフィス 代表 富士通エフ・アイ・ピー・システムズ株式会社 元社長
委員：池田 正紀	パンフィックシステム株式会社 センシング事業部 上席執行役員 事業部長

令和6年度 中央情報専門学校 学校評価委員会 名簿

(氏 名)	(所 属)
委員長：岡本比呂志	学校法人中央情報学園 理事長
委員：堀切 達也	学校法人中央情報学園 産学連携推進部長 中央情報専門学校 校長
委員：佐宗 房雄	学校法人中央情報学園 事務部長
委員：小菅 厚	学校法人中央情報学園 教育開発推進主幹
委員：斉藤 由美子	中央情報専門学校 副校長
委員：富樫 素子	中央情報専門学校 ビジネスデザイン学科長／就職部 課長

「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省平成25年3月)に基づき、令和5年度の活動について、令和6年7月に以下のとおり、学校自己評価を実施した。

1. 学校の教育目標

〈経営理念〉

未来を創る

～未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する～

〈教育理念〉

中央情報専門学校は、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで、社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

自主・創造・誠実 ～ 学び続ける者だけが成功する ～

〈教育方針〉

○一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし

開花させることを教育の基本とする

○授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとし

学生の自主的自発的学びを重視する

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. 学び方を学ぶ
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. アイデアをデザインし、デザインを形にできる能力の育成
5. 希望者全員の就職

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 社会の要請や時代の変化への対応

「IT分野」

近未来のITビジネスは、DX（デジタル・トランスフォーメーション）とAI（人工知能）が密接に関係してくる。

特に2025年問題もあり、ビジネスモデル転換を目指したDXを推進できるイノベーターを育成する必要がある。社会に役立つ幅広い知識を持つ専門職業人を育成する専門学校においても、従来の実践的なIT専門職業教育に加え、DX実現に向けたビジネスモデルの転換や経営戦略の革新、そしてITとの関係を意識したAIのカリキュラムを積極的に取り入れていく。加えてオンライン教養講座を定着拡充させ、リベラルアーツを修得できるカリキュラム体系に変革する。

AIエンジニアの教育においてもIT・DXの知識を習得させ、経営の基本がわかるエンジニアに育成していく必要がある。

さらに対面授業・遠隔授業をハイブリット型で実践し、近未来の先駆けとなる幅広い見識を持ったクリエイティブなIT・AIエンジニアを育成していきたい。

「ビジネス分野」

現代のビジネス環境は、技術の進化により急速に変化している。このような時代の変化に適応し、柔軟に対応できる人材を育成していくことを目指す。

留学生の強みである、日本人とは異なる視点やアイデアで新たなビジネスモデルを創出できるよう、マーケティング企画や貿易に関する学習に力を入れ、様々な分野で活躍できるグローバルな人材を育成していく。また、日本企業の労働力不足を解消するためには、外国人労働者を有効に活用していく必要がある。そのため、外国人雇用の専門知識を身に着けた管理要員としてトータル的なサポートを提供できる人材を育成していくことを目指す。

(2) 教育環境の整備とシラバスの改訂・分かりやすい授業の展開

「教育環境の整備」

全学生が自宅で遠隔授業を受けられるようマイPC購入支援制度やパソコン貸与、ルーター貸与を行っている。学生一人ひとりにMicrosoft365のマイクロソフトのライセンスを付与し、OneDriveなどのクラウドサービスを使った教材の利用や課題の提出など遠隔授業を実施している。

2年前から、学校DXの一環として、各教室に大型モニターを設置し、教材をより鮮明に映し出し、ワイヤレスマイクを使用し、対面授業・遠隔授業のどちらにも対応できる学習環境を整備し、インフラ面においても、“わかりやすい授業”を実現している。

特に、複数の教室にまたがる特別講義が可能となった意義は大きい。

さらにWSDBを導入し、ペーパーレスで出席状況をリアルタイムに掌握できるようになった。

「シラバスの改訂」

教育DXの一環として、2年前から3学科の共通科目として『情報学基礎』『オンライン教養講座』

をスタートさせ、リベラルアーツを修得できるように、シラバスを改訂した。

IT系では、プログラミング関連科目やWebシステム関連科目等でオーソドックスなスキルを修得した上で、AIイノベーション科目やAIプログラミング科目で最先端テクノロジーをビジネスに応用するためのスキルの修得を図っている。

ビジネス系では、『情報学基礎』において、IT・AIの基礎を習得できるようにしている。さらに授業形態においても、遠隔・対面・実習をハイブリット型に組み上げて、よりアクティブに学ぶことができるよう高度化している。

「分かりやすい授業の展開」

対面授業と遠隔授業の組み合わせを活用し、ハイブリット型の授業形態を拡充させている。対面授業では、学生の理解度を確認しながら授業をすすめるために、遠隔にて小テストと課題を提出させ、必要な場合は個別指導できるようにしている。

対面授業は、プログラミングや実習を中心に90分授業にて実施している。

座学の授業は、45分で対面授業を実施し、遠隔にて主にレポート形式で課題提出をさせている。遠隔授業では、Web教材を閲覧した後、毎回確認テストを実施し、課題の提出を促し理解度を確認している。また、学生が担当教員に直接質問できるチャット機能を利用している。授業形態によっては、双方向の参加型オンラインライブ授業を実施しており、自宅にいながら教室で授業を受けている状況と変わりなく学習できるようにしている。

教員は、春季・夏季の学生休暇期間中には積極的に授業に関係する各種研修会に参加し、授業を構成する基礎力を育成する努力を継続している。これらの研修会に、参加の機会を得られなかった教員に対して、教員研修会を開催することにより知識の共有化を図っている。

尚、今後もハイブリット型の授業を継続していきたい。

理由は、企業においても出勤と在宅を併用したハイブリット型で仕事をするケースが多く、企業の勤務形態に適合しているからである。

「生成AIのガイドライン」

昨年度、学園として「生成AIのガイドライン」を発表した。

生成AIについては、特別授業も実施し、学生の利活用を推進している。しかしながら学生の日本語力・文章力低下をもたらすこともあるため、レポートや課題提出は禁止している。

(3) 学生指導の充実

当校は外国人留学生が大半であるため、学校独自に作成した「学校生活ガイドブック」を活用し、日本における生活習慣とルールについて、各クラス担任による指導を徹底している。

また出席率は向上しているが、特に出席率が80%に満たない問題のある学生については、学生指導担当と担任と情報共有をしながら、きめ細かい個別指導を実施している。

日本で就労機会を求める学生にとって必要な礼儀・作法についても講義を行うと共に、「留学生の在留資格ハンドブック」を活用し、各クラス担任から日本で働く意味や仕事に対する基本的姿勢などについても指導を行っている。

(4) 進路指導

新型コロナウイルス感染症の影響は軽減しつつあるが、日本語での文章力はあっても日常会話をする機会の少ない留学生の就職は厳しい状況にある。

この厳しい状況を踏まえ、日本語コミュニケーション力のアップを図り、ポートフォリオに基づき学生の希望就職先を踏まえながら当校で実施されている「学内企業説明会及び面接会」において多くの会社を受ける機会を提供している。

学内企業説明会は当校学生に対して採用意欲を持つ多くの企業の参加を得て実施されているので、学生が就職したい企業を増やしていきたい。

また、特定技能（外食業、宿泊業、建設業：ライフライン・設備、航空業：グランドハンドリング、ビルクリーニング業、介護業、農業等）にも積極的に進むよう指導し、日本で就職できる業種の幅を広げている。

(5) 学生募集

当校は、常に学生の卒業後の進路を念頭に置きながら、技術を学習する資質や日本語能力など日本での就労に適合する学生を募集している。従って入学試験は、単に学力の測定のみにより可否を判定するものではなく、学習意欲・学習態度・IT・AI もしくはビジネスにおける資質を重視している。さらに留学生に対しては資格外活動が許可された時間を超過していないか等、厳格に審査している。また、6月からAO入試を取り入れ、オンライン面接を実施することで、首都圏だけでなく地方または海外からも直接入学しやすい仕組みを採用している。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

②課題と改善策

- ・自主性を高めるカリキュラム構築が進んでいるが、学生の自主性が養成されているか評価する取り組みが少ない。現在では学園共通のフォーマットである学習ポートフォリオの作成を通じて年に数度学習成果を自己整理する形となっている。学科の特性に合わせた取り組み状況の確認を継続的に実施できるような補助的な確認機会を設ける等の方策を検討している。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・毎年度、学校生活ガイドブックを作成し、学校の教育理念、教育目標、学科の目的・育成する人材像が示され、学期の始まりに行うオリエンテーションで周知徹底されている。
- ・中学・高校では個別最適な学びと共同的な学びの推進が核になっている。個別の学びは特にITを活用し、様々な学びを自分で高めていく、それをもとに共同的な学びをしっかりとっていく活動が重要となってくると思う。

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
e	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②課題と改善策

- ・カリキュラム構成の変化や校務・教務環境の変化などに対応するため、新たなパッケージソフト

ト（学籍・出席・成績管理）を導入し、また共有サーバーのクラウド化も行っており、早期定着化により、更なる業務の効率化を図っていく。

③学校関係者評価委員会による評価

・AI や DX など、変化がものすごく速い。それに対応し十分に意識されている。状況に応じた内容に変えていくということは大変だと思うが続けて行ってほしい。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	3
n	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

②課題と改善策

・AI 技術の発展により、実際に利用できるサービスとして実現力が求められるようになった。その際クラウド技術を利用することが多く、2 種類の先端技術の習得が求められる情勢になりつつある。しかし、どちらも高い技術が必要であるため2年の在籍期間では教授しきことは難しい。1年次より学習を始められるようにAI・クラウド技術に触れる機会を設け、これらの自主学習を支援できるような教員の知識・技能の獲得を進めたい。

・資格の取得が学生個人の意欲に依存しており、資格の取得に偏りがあったので、資格取得への道すじを明確にし、2年間の教育課程の中で、全体での取得率の向上と、各個人のレベルに合わせた資格の取得を促すことに重点を置いた。

また、学習ポートフォリオを活用し、目標を持って学習するようにした。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・教育の質の向上で、アクティブラーニングの推進は、方向性としては非常に良いが、達成状況や次年度の課題の中でアクティブラーニングそのものが何を推進しているのかが少し読み取りにくいのではないかと。アクティブラーニングに対してこんな教育をしているというのが見えてきていない。それを支援するための道具としてチャットを使っているというのは見えてくる。
- ・「アクティブラーニングの推進」と「遠隔授業と対面授業の実施」と書かれているが、「遠隔授業と対面授業の実施」そのものはアクティブラーニングの1つの手段のため、一体化しても良いのではないかと。

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

②課題と改善策

- ・就職した企業と卒業生を対象にヒヤリングを実施している。特に適応能力が高い卒業生については企業からも評判が良く、継続的に同等の能力を有する学生の送り出しを求める声が寄せられている。今後も就職先企業において、卒業生がどのように評価されているか、またどのような人材が求められているかを調査し、実践的職業教育の実施内容に反映させることが必要であると考えている。
- ・今年度は、卒業生に就職講座等でスピーチの機会を設けることで、在校生の企業での活躍ぶりをアピールしていきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・希望者全員の就職の実現なので、そのテーマで見た時に就職率は非常に高いので、評価はよくていいのではないかと。さらに取り組みを打ち出すようにしたほうが良い。
- ・実際に学んだことがどう活用されているかの関心が高いと思う。アドバイザーとしての利活用としてのAIもあるが、システムの中に組み込むものは新しいものだけではなく、基本の仕組み、従来もともとどんな繋がりがあるか、開発に活かしていくか、卒業生が在校生と話をし、きちんと活かせるとよい。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	3
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

②課題と改善策

- ・浦和工業高校に訪問し、VR の体験・開発の様子の見学を行い高校との連携を実現している。また浦和工業高校の教員 2 名、学生 3 名に来校いただき、IT・Web 学科のクラスで VR 体験のデモ授業を行うなど工業高校との連携を実施している。今後は川越工業高校など他の高校との連携も提案している。
- ・高校生向けの講習会として「ラズベリーパイによる Python プログラミングと制御」の実施を検討している。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・アクティブラーニングの次年度への課題と改善策のところで、社会人になってからの「報告連絡相談」はどの企業でも課題であると感じる。言葉にできないなど、優秀な能力であっても、報告連絡相談が出来ないとプロジェクトやチームや環境をうまく維持できないことが発生し、ある意味損失に繋がることもあるため、非常に大切だと思う。自分から質問、発言していくことができる学生については、評価のところに取り入れていただきたい。

(6) 教育環境

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②課題と改善策

- ・新型コロナ対策で遠隔授業を実施するなかで、学校が用意したノート PC の学生への貸与を行ってきたが、PC を各自用意して学習に役立てる「マイ PC」を推進して、学習意欲、授業への参加意欲を高めることがより一層必要となったので、できるだけ「マイ PC」の購入を促し、購入までの期間のみ、またはどうしても用意できない学生にのみ貸与を続けることとした。
- ・講義室の椅子に食べこぼしなど、汚れも目立つので、学生がきれいに教室の利用しようという意識が乏しいため、教室の椅子（約 300 脚）を新規購入して入替えを行った。
また、教室の美化や備品の利用について啓蒙していくこととした。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・学園情報ホームページを新しく作成予定。学園独自に各国言語で海外への発信できるよう、また高校生募集向けのページ、各学校ページへのリンクなど情報サイトを立ち上げる。

(7) 学生の受入れ募集

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②課題と改善策

- ・首都圏での当校の理解度は高いと思われる。しかし他の地域ではまだまだ当校の入試内容の理解が乏しい日本語学校もあるため、よりオンラインの説明会やWebのツールを使用して、首都圏以外の進路担当者にも当校の学校説明をしていく予定である。
- ・コロナ明けより毎年、全国の日本語学校500校に学校案内を配布している。
- ・インドネシア国立ボゴール農科大学（IPB）とMOU教育協定を締結した。IPBの学生が、在学中に本校に入学して単位を取得することで、学士号と専門士を取得するダブル・ディプロマプログラムで、国内の専門学校では初の教育協定である。今後IPB大学の留学生受け入れを推進していく予定である。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・インドネシアの大学との教育協定は大いに評価できる。今後は留学生の受け入れが定着化し、結果としてしっかり就職に繋がるよう見守っていききたい。
- ・募集状況は良くなっていると思うが、また足りないことがあれば評価を検討する必要がある。日本人募集については評価項目に書かれていないが、日本人募集がキーワードになれば評価の項目に入れ、結果はどうだったのかを課題と改善策に書いても良いのではないかと。
- ・日本人の高等教育への進学が急激に上がり、数年間で 10%くらい上がっている。埼玉県では 5 万人の高校生のうち就職するのは 10%（5 千人程度）しかいない。専門・大学に進学している。

(8) 財務

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②課題と改善策

- ・特になし。

(9) 法令等の遵守

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②課題と改善策

- ・個人情報保護対応については、常に取扱状況等を確認しながら、組織に緩みが出ないように対応していく。
- ・自己評価の評価項目は、文部科学省のガイドラインに沿ったものであるが、学校自己評価、学校関係者評価を行う上で効果的な学校独自の評価項目を設定するために、埼玉県の「学校自己評価システムシート」を参考に、学校重点目標を設定した評価シートを作成した。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

②課題と改善策

- ・全国の工業高校教員向けである全国高等学校長協会 夏季講習会「Python プログラミングによるデータ解析」を実施した。
- ・コロナ禍で中断している学校周辺地域の清掃等ボランティア活動を再開する予定である。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

②課題と改善策

- ・ 学習成果については、入学時にポートフォリオを作成させ、定期的に追加記入することで各学生の学習成果を見える化するようにした。また、学内プレゼンテーション大会を毎年開催し、学生一人ひとりの参加意欲を向上させ作品を発表している。グランプリ大会では国内外からも評価してもらえるようホームページ配信を検討している。

③学校関係者評価委員会による評価

- ・ 全員が対象となり発表するプレゼン大会はとても良いと思う。